

令和 3 年 3 月 2 日  
座長 三浦 正幸

## 広島城天守閣の方向性に関する懇談会意見集約（案）

### 1 検討の経緯

「広島城のあり方に関する懇談会」（以下「懇談会」という。）では、令和元年 10 月以降、広島城の一層の魅力向上を図り、新たな観光拠点として再構築するため、広島城の各ゾーン（本丸・二の丸・三の丸）の基本的な方向性と具体的な活用方法等について意見交換を行い、令和 2 年 5 月には、今後の取組の基本的な指針として「広島城基本構想」が策定された。

また、広島城天守閣（以下「天守閣」という。）については、同月に公表された耐震診断調査結果において、耐震不適格な状態にあることが判明したため、天守閣の耐震対策の方向性について意見交換を行い、この度、懇談会としての意見集約に至ったことから、以下のとおり広島市に報告する。

### 2 意見集約内容

#### (1) 天守閣の木造復元

- ・ 懇談会において天守閣の木造復元を支持する意見が大多数を占めたことに加え、市議会や市民の間においても木造復元に向けた期待が大きくなりつつあること等も踏まえ、広島市として木造復元を目指し、文化庁と丁寧に協議を行いながら本格的な調査検討を進めるよう提案する。
- ・ 木造復元の実現に当たっては、①構造物を支える石垣の状態を調査し、補強の要否を確認すること、②木造復元、石垣の修繕等を確実に進めるための事業推進体制を確保すること、③事業を推進するために必要な財源を確保すること、④公的費用も含めた財源の確保に当たっては、市民の了解を得るための機運の醸成を図ること、など様々な課題があり、解決にはある程度の期間を要すると考えられる。このため、その間の経過措置として、今後開業予定の三の丸展示収蔵施設の活用も視野に入れながら、天守閣を含めた広島城全体の活用のあり方とあわせて、その段取りを検討してはどうか。
- ・ なお、木造復元が実現するまでの間の耐震改修については、二重投資を避ける観点から、行う必要がないと考える。
- ・ また、耐震改修を行わない場合の閉館の要否については、様々な観点から検討が引き続き必要と考えられるため、施設所有者である広島市において、今後の対応を検討・決定されたい。

#### (2) 復元範囲

- ・ 天守閣だけでなく、東小天守・東廊下、南小天守・南廊下、中御門や裏御門についても木造復元（根拠資料の不足等により困難な場合は、復元的整備）されれば、かつて日本を代表する大規模な城郭であった広島城が有する価値の発信力が大きく高まるため、そうした観点も踏まえながら、広島市として具体的な方向性を出してはどうか。
- ・ なお、復元範囲の決定に当たっては、事業費やスケジュール等を十分勘案しながら、検討してはどうか。

#### (3) 展示収蔵施設の整備

- ・ 三の丸にぎわい施設の整備に当たっては、飲食・物販施設等の便益機能に十分配慮しつつ、充実した規模及び内容を備えた展示収蔵施設も併せて整備すれば、広島市の歴史・文化の発信を継続的かつ発展的に行うことができるため、そうした観点も踏まえながら、広島市として具体的な方向性を出してはどうか。
- ・ なお、三の丸展示収蔵施設が取り扱うべき主なテーマは、「広島城の歴史と城下町の文化（武家文化と町人の文化）」に特化してはどうか。